

幌尻山荘の携帯トイレ導入3年目を終えて

藤田 英幸（一般社団法人平取町山岳会 事務局長）

1) はじめに

私たち、『一般社団法人平取町山岳会（以下当会）』は、所有者である平取町からの委託を受け、幌尻山荘の維持管理を行ってまいりました。山荘の業務は多岐にわたりますが日本百名山の完登を目指す登山者が急増してからは排泄物の処理が喫緊の課題となり、これまで平取町や当会に限らず関係諸団体、特に『山のトイレを考える会』や『日高山脈ファンクラブ』の会員の皆さまの多大な協力を得ながらこの問題の改善を図ってきた経緯にあります。これまでの取組については『山のトイレを考える会』のホームページ上において詳細な報告がなされておりますので参照いただければと考えます。このため、今回は当会が携帯トイレの普及に向けて主体的に事業を行った令和元年以降の取組について報告させていただきます。

2) 令和元年の取組

令和元年は、従来実施してきた幌尻山荘内の貯留式トイレの排泄物を一斗缶で担ぎ下ろす処理方法も限界を迎えていることを認識し、今後の幌尻山荘における排泄のありかたについて具体的に検討を行いました。最終的には貯留式トイレの使用を廃止していきたいが、バイオトイレ1基では山荘での排泄物の処理量を大きく超えることとなり、バイオトイレを増設することが理想ではあるが費用的に困難な状況でした。また当時は携帯トイレの使用についても普及状況が進んでおらず、過渡期における対応としてバイオトイレと貯留式トイレを並行して使用しながら、携帯トイレの使用を推奨していくこととしました。このため、本年については排泄物の担ぎ下ろしも随時実施することとなりました。

このようななかで、幌尻山荘での携帯トイレの使用を促進することや、当時携帯トイレの普及が充分ではないなかで、実際に幌尻山荘においても携帯トイレを使用する登山者がいるのだろうかという疑問もあったことから、平取町の独自事業である『平取町町民税1%まちづくり事業』に応募し、助成金の一部で携帯トイレを購入し、これを希望する登山者には無償配布し、費用負担が発生しないなかで協力者がどの程度いるのかというサンプリングを実施することとなりました。

この取組は残念ながら採択時期が遅れたこともあり、実際に配布できる時期が登山シーズンの終盤であったことから、十分なサンプリング結果が得られないとの判断により、山荘利用者や山岳ガイドから意見を求め、次年度の効果的な実施について検討するとどめました。得られた意見として、『携帯トイレを利用する人と利用しない人との差がある』『無償配布とすると結局使わないで何の効果も得られない可能性もある』『携帯トイレを使用しても途中で投棄することもある』『山荘利用者から一律の供託金を徴収したうえで、事業へ

の協力者（回収まで至った者）と使用せずに下山した山荘利用者と間に、供託金の返戻に差をつけてはどうか』等があり、これらを参考に翌年はシーズン当初から携帯トイレの普及推奨につとめることとしました。結果的には、目立った実績はありませんでしたが、この取組が当会による携帯トイレ普及に向けて具体的に活動を行った端緒でした。

また、この年の山荘内の貯留式トイレでの排泄物の処理については、当会会員を中心に小屋開け前に2回（延べ4日）、シーズン中に1回（延べ2日）、小屋閉め直前に1回を実施し、シーズン終了までに山荘トイレにおける排泄物を全て担ぎ降ろしました。

（参考）令和元年における排泄物の担ぎ下ろし状況

参加者区分	延べ人数（実人数）	処理量	経費（歩荷代）
当会会員	50名（14名）	一斗缶 66缶	330,000円
平取町職員	7名（5名）	〃 7缶	35,000円
町民有志等	4名（4名）	〃 5缶	25,000円
合計	61名（23名）	〃 78缶	390,000円

後述のとおり令和2年及び3年については新型コロナウイルス感染症の拡大により、額平川からのコースを閉鎖し、再開後の令和4年から携帯トイレの使用に転換したことから結果的に本年が排泄物の処理を行った最終年となりました。

3) 令和2年の取組

令和2年は、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、幌尻山荘を含む額平川コースについては全面的に閉鎖することが登山シーズン前に決定しました。非常に残念な判断となりましたが、当時の社会情勢や平取町の医療体制を考えるとやむを得ないものであったと考えます。また、地元町民も参加した懇談会では、「平取町の市街地に殆ど経済効果をもたらさない登山客が来なくても多くの町民にとっては死活問題にはならない。」という趣旨の意見もありました。

なお、仮にこの年に新型コロナウイルス感染症の拡大がなく、予定通りに額平川コースからの登山を実施していた場合には、携帯トイレの普及に向けた取組は実施しますが、大きな転換は行っていなかったと考えます。

4) 令和3年の取組

令和3年については、前年からの新型コロナウイルス感染症の拡大は収まらず、早い段階で幌尻山荘を含む額平川コースについては再開しないことに決定しました。

5) 令和4年の取組（携帯トイレ導入初年）

① 携帯トイレの使用に至った経緯

令和4年については、新型コロナウイルス感染症の拡大は完全に収束していませんでしたが、既に2年間にわたり額平川コースを閉鎖しており、多くの登山者からの再開を求める声が多かったこともあり、山荘の利用定員を削減するなど感染対策を行って額平川コースを再開することとしました。

長期の閉鎖期間は、今後の幌尻山荘を含めた登山道の維持管理をどのように実施していくか関係機関による課題の検討や準備に十分な時間をとることが可能となった側面もありました。このなかで、再開後の山荘でのトイレの利用については、「バイオトイレ以外は携帯トイレを使用とする」の大規模な転換を行うこととなりました。理由としては2年間の閉鎖中に携帯トイレの普及が進んだことがあります。特に幌尻岳の訪れる登山者の殆どが日本百名山の完登を目指しており、本州での先駆的な取組みに接する機会が多いと考え、受容されやすいと思われること。前年からの激変という混乱が緩和される結果になったことがあげられます。

② 登山シーズンの開始に向けて

登山シーズンの開始に向けて行ったことはまず地元関係者の認識を統一することでした。平取町内における幌尻岳登山に関係する組織としては、平取町、当会、シャトルバス運行会社、とよぬか山荘（シャトルバス発着、宿泊施設）があり、登山者が幌尻山荘の利用について照会する先は一つではありません。出発前であれば誤った情報を伝達したとしてもリカバーすることが出来る可能性もありますが、幌尻山荘まで到着してからでは全く対処できない場合も多々あります。また、この年から山荘の管理人を公募により外部に委託したことから、関係機関で協議した山荘運営における決定事項を充分把握させることに努め混乱のないようにしました。

③利用者への周知

今回の携帯トイレの導入に向けて最も配慮したことは、山荘利用者にもどのように周知して協力を得ていくかということでした。まず登山シーズンの開始前から余裕をもって平取町のホームページに告知を掲載しました。告知にあたってはこれまでの取組や問題点、導入に至った経緯等を丁寧に説明するようこころがけました。また、同様の内容のポスターをとよぬか山荘にも掲示しました。このような取組の結果、とよぬか山荘に到着した時点で取組を知った登山者は一定数いたとは考えますが、シャトルバスの車内でも携帯トイレを販売するなどの措置をとったことから、幌尻山荘が携帯トイレの使用に転換したことを把握しないで山荘まで来られる登山者は殆どなかったように思います。

なお当時の告知文は【別紙】の内容となっています（現在とは異なる部分もありますので抜粋しています）。

④具体的な取組

携帯トイレの導入に向けた具体的な取組として、まず幌尻山荘の内部に山荘建設当時のあった貯留式トイレの大便器を撤去して携帯トイレブースに改造したほか、山荘の外部、バイオトイレ横に設置した仮設式貯留式トイレ2基の便器を撤去し、同じく携帯トイレブースに改造しました。また幌尻山荘前に携帯トイレ回収ボックスを設置したほか、北電取水ダムにテント型の携帯トイレブースと回収ボックスを設置しました。なお、このテント型ブースは安定性が悪く、平取町の単独事業である『びらとり協働のまちづくり事業』からの助成金を活用し木材を使った組立式のトイレブースを設置しました。

⑤負担金の徴収

携帯トイレの導入によって、これまでの排泄物を一斗缶に入れて担ぎ下ろす方式から作業負荷は大幅に減ったものの、当時は携帯トイレの使用については広範に普及している状況ではなく、排泄物をザックの中に入れることに抵抗が少なくないと考えられ、臭いの発生などから使用済みの携帯トイレの山中への投棄という新たな問題も発生していました。このことから使用済みの携帯トイレの廃棄場所を山荘に設置し、一定量が溜まったら当会会員が担ぎ降ろす方法を取り、懸念される山中への投棄を防ぐこととしました。しかし、幌尻山荘で廃棄される場合には人力により北電取水ダムまで担ぎ降ろす作業を伴い、これには対価が発生することとなりますので相当の処理料を負担いただくこととしました。

負担金の金額については利用者1泊あたり1,000円とし、対価として携帯トイレ1個(500円相当)を配布したことから、処理料部分は500円となります。利用者からの負担金の徴収については大きな混乱はなく理解を得ることができました。

⑥成功の要因

令和4年は幌尻山荘において携帯トイレ導入という大転換を行いました。大きな混乱なく推移しました。要因としては以下のような点が考えられます。

- ・閉鎖期間も含めて十分な準備期間があった。
- ・周知の徹底と情報の共有を図った。
- ・携帯トイレの普及が急速に進んだ。
- ・水力発電機が順調に稼働しバイオトイレとの併用が可能であった。
- ・山荘の定員を削減したため排泄量が減った。

いずれにしても、不安を感じながらのスタートとなりましたが、利用者の皆様の理解と協力を得て、大きな混乱もなく初年度を終了できたことは大きな自信となりました。

5) 令和5年の取組

令和5年については、前年の結果を踏まえ携帯トイレの使用方法等について大きな変更はありませんでしたが、シーズン当初より水力発電機に不具合が発生し使用が不可能となり、安定的な電力の供給を前提とするバイオトイレを稼働させることができなくなりました。補助の電力供給減としてエンジン発電機もありましたが、常時稼働するには相当量の燃料を担ぎ上げなければならず、やむなくバイオトイレを使用中止とし、山荘利用者は排泄の殆どを携帯トイレで行うこととなりました。

このバイオトイレ利用中止に伴って、山荘前の回収ボックスに廃棄される使用済の携帯トイレは激増することとなりました。しかしながら使用済み携帯トイレを山荘に放置するわけにはいかず、毎週末ごとに当会会員が山荘内の使用済み携帯トイレを回収して担ぎ下ろしを行い、1週間で40%のゴミ袋で10袋程度が溜まる結果になりました。

このような状況が続くなかで、女性登山者は小用も携帯トイレで行わなければならない、使用量も増加し男性利用者との公平性に差が出ていること、担ぎ下ろしに対する会員の疲労や経費面での限界に達しつつあり、水力発電機の復旧も絶望的となったことから、打開策として山荘内への電源供給用のエンジン発電機に加えて、予備のエンジン発電機をバイオトイレへの電源供給のため稼働させることとしました。

これに伴い、荷上げする燃料用のガソリンも増加し、歩荷等の経費も増えることとなるので、従来通りの協力金の使途では山荘の運営は困難となり、山荘利用者の負担金について以下のように改めました。

- ・バイオトイレ使用料として協力金1,000円を負担いただく。
 - ・携帯トイレは登山者負担とし山荘内で購入(1個500円)するか各自持参する。
 - ・山荘内の回収ボックスに投棄する場合は、1個500円を処理料として負担する。
- ※取水ダムの回収ボックスに投棄する場合には処理料は不要

この措置により、携帯トイレを幌尻山荘の回収ボックスへ廃棄する数は減少しましたが、発電機燃料の荷上げという作業は継続して行うこととなりました。やはりバイオトイレとの併用は不可避であり、次年度以降も電力の確保という課題は残りましたが、山荘管理人が利用者の意見を吸い上げ、当会と関係機関が連携しながら改善を図ることが出来たと考えます。

5) 令和6年の取組

令和6年については、昨年从不調だった水力発電機の修繕を行い、バイオトイレを安定的に稼働させて令和4年と同様の運用を行う予定でしたが、水力発電機の故障原因を特定することができず、前年に続き水力発電機からの給電を断念しました。

しかしながら前年同様に全ての電力をエンジン発電機でまかなうと、燃料の荷上げ等の

費用もかさむことから、ソーラーパネルを利用した太陽光発電により電源を確保することとしました。ただし水力発電機と同規模の電力を得ることは出来ず、バイオトイレを含めて山荘全体への電源供給のためエンジン発電機と併用することとなりました。

トイレの利用方法や負担金の内訳について前年からの変更点はありませんでしたが、利用者からも目立った苦情はなく、3年間を経過して十分な理解浸透が図られたと考えております。

6) 今後の取組

これから令和7年の登山シーズンに向けて準備を進めていきますが、水力発電機の不具合の原因が現段階では特定できておらず、安定的な電源供給をどのように行うことになるのかという課題は残っております。しかしながらバイオトイレと携帯トイレ使用を併用していく利用方法については、導入から4年目を迎え、大きな改善課題も現状ではなく前年同様に行う予定です。

また、使用済みの携帯トイレの処理についても、山荘の回収ボックスへの廃棄は有料という理由もあるとは思いますが、殆どは車輻での回収が可能な北電取水ダムの回収ボックスで廃棄されており、当会会員の作業負担が軽減され非常にありがたいことと考えます。

7) 最後に

当会は令和4年12月に法人化を図りましたが、当会活動の目的については、『当法人は、幌尻岳登山道平取コースの整備、幌尻山荘の適切な維持管理及び登山技術の研鑽を行うことを通じて、登山を愛する平取町民が団結し、相互親睦を深めること、また平取町内の関係機関、組織との連携を密にして、平取町の文化産業の振興に資すること』としています。

国立公園化のニュースが流れ、町内にも懸垂幕や看板等が設置されていますが、多くの町民にとって関心があるように思えません。このような状況ではありますが、幌尻岳を目指す多くの登山者が快適な登山を行えるよう今後の活動に励みたいと考えております。

【別 紙】

幌尻山荘利用者の皆様へトイレ協力金のお願い

令和4年7月1日 平取町山岳会

登山愛好の皆様方には益々ご清祥のことお喜び申し上げます。

ようこそ幌尻山荘へ。幌尻岳への登頂にあたり、山荘の予約、渡渉などなにかと困難の多い額平川からのルートを選び、はるばるこのような到達困難地まで足を運んでいただいたことに感謝申し上げます。

さて、早速ではありますが、私ども平取町山岳会では、幌尻山荘を所有する平取町からの委託を受け、山荘の管理を行っておりますが、近年登山者の皆さんが登山中に行う排泄物の処理が大きな問題となっております。これまで山荘には山荘内に貯留式1基、山荘外にバイオトイレ1基、仮設貯留式トイレ2基を設置してきましたが、貯留式のトイレについては排泄物を一斗缶に移し替えて、当会会員や町職員有志で額平川の渡渉を繰り返しながら担ぎ降ろすという作業を行って参りました。

この作業については、額平川を渡渉して来られた皆様にはご理解いただけたと思いますが、相当の気力、体力を必要とし、会員の高齢化が進むなかでいつまでも継続に行える作業ではないと考えます。また排泄物を処理する過程において生の排泄物を取り扱うため、近年の新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から衛生的にも決して好ましいものではないと考えます。また近年の自然環境、特に山岳環境への配慮から携帯トイレの使用が推奨されており、近々国立公園化が予定されている当山域においては重点的かつ積極的に取り組むべき課題となっております。

また、皆様ご承知のとおり幌尻山荘については一昨年、昨年の2ヶ年にわたり登山者の受入を中止したことから、山荘内外のトイレに残留している排泄物はない状況となっております。このため額平川コースを再開した令和4年度が幌尻山荘周辺のトイレ環境の転換を行うには絶好の好機と考え、関係機関とも協議し下記のような使用方法とすることに改めました。

山荘内ではバイオトイレと併用しつつ、これまでの貯留式トイレを携帯トイレ用ブースとして活用し貯留式トイレは廃止する。

利用者の皆様には更なる負担をお願いするところではありますが、トイレの問題は避けては通れないものであり、当会としても山荘内の快適な利用環境を目指し、関係諸機関とも協力しながら登山者の皆様が「また来たい」と思われるような山荘の維持運営に努めてまいりますので、利用者の皆様のご理解とご協力を賜りたくよろしくお願い申し上げます。